

最 終 試 験 の 結 果 の 要 旨

神奈川県立歯科大学大学院歯学研究科 災害医療歯科学講座法医歯科学

吉田 和矢 に対する最終試験は、主査 有坂博史教授、副査 井野智准教授、
副査 岩渕博史准教授により、論文内容ならびに関連事項につき口頭試問をもって行わ
れた。

その結果、合格と認めた。

主 査 有坂 博史

副 査 井野 智

副 査 岩渕 博史

論 文 審 査 要 旨

全身麻酔関連医療訴訟の原因の研究

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

災害医療歯科学講座法医歯科学 吉田 和矢

(指 導：山田 良広教授)

主 査 有坂 博史 教授

副 査 井野 智 准教授

副 査 岩淵 博史 准教授

論文審査要旨

全身麻酔の偶発症に関するデータの集積や解析はこれまで多数行われているが、全身麻酔事故の裁判の判例を解析した研究はほとんどない。本研究では、全身麻酔に関する医療事故裁判に関してオンラインデータベースと電子図書データを活用し、1971年1月1日から2016年6月までの全身麻酔症例の医療事故に関する裁判判例を解析したものである。審査では、審査員より①判例ごとに判例内容と論文内容との医学的・麻酔科学的な理論的な整合性について詳細な検討②本研究におけるP-m SHELLモデル分類の有用性について③研究で得られた新しい知見を明示する④研究のlimitationを明示するなど66項目の意見が出され、その後、約30項目にわたる照会事項（別添資料）について、審査員と申請者間でのメール通信（1月25日～2月5日）し、論文内容の修正が行なわれた。

研究内容は、裁判の内容ごとに分類し、事故発生のタイミング、判例の年代別変化、医師側の勝訴率の変化、原因別有責率を検討し、さらにすべての事故要因を事故要因についてP-m SHELLモデルを使用して解析を行っている。収集した判例は57例であり、死亡事故は43例。その他にも植物状態や重篤後遺症が認められた事例がほとんどであり、全身麻酔の医療事故は、死や重大な結果になりやすいことが示唆された。P-m SHELLモデルの解析では、麻酔担当医（L要因）によるものが57例中34例（59.6%）。患者（P要因）によると考えられる事例が22例（38.6%）で、それに続き管理体制（m要因）が1例（0.02%）であった。また、P-m SHELLモデルの主要要因ごとの医師の有責率は、L要因では97%であったが、民事では100%であった。P要因の場合はすべて医師が勝訴しており0%であったなどの結果が得られた。また本研究のlimitationとして、1) 必ずしもすべての全身麻酔関連事故判例を網羅するものではない。2) 収集した対象には、現在では起こりえない医療事故も含まれている。3) 裁判は医療安全の向上を主目的としたものではないため、事故の原因を個人や法人をターゲットにしている場合がほとんどで、人間以外の要因（m, S, H）についての記載が乏しくP-m SHELL分析の限界となっていると述べており、P-m SHELLモデルに基づく事故要因の分析の有効性と限界を示している。今後は、これらの有効性とlimitationを考慮すれば、歯科の医療事故に関する多数のケースでの応用が十分期待される内容であることが示唆された。

論文内容および関連事項に関して、口頭試問を行ったところ十分な回答が得られることを確認した。そこで、本審査委員会は申請者が博士（歯学）の学位に十分値するものと認めた。